

# 口腔顎顔面外科学入門（安部貴大）

Introduction to Oral and Maxillofacial Surgery (Takahiro Abe)

## キーワード

- ①口腔外科診断
- ②口腔内科
- ③医科歯科連携
- ④臨床研究
- ⑤倫理規定

## 関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

## 関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

## 授業概要

口腔顎顔面領域の疾患は多岐にわたり、診断に至るプロセスには多くの知識を必要とする。口腔外科医を目指すためには、適切な診断を行えるための検査法のみならず総合的な医学知識も学ぶ必要がある。また、歯科医師が単独で対応することが困難な場合には多職種との円滑な連携を行うことが要求される。このような背景を理解したうえで、適切な倫理規定に基づき、リサーチマインドで社会貢献に取り組みなければならない。本講座では口腔外科領域の現状を概説する。

## 授業科目の学修目標

- ・口腔顎顔面外科領域の診断法を学ぶ。
- ・適切な医療連携が行える対処法を身に付ける。
- ・口腔顎顔面領域で行える研究デザインの方法を修得する。
- ・適切な倫理規定を理解する。

## 授業計画

- ①口腔外科診断法の基礎知識
  - ・診断総論 4コマ 安部貴大
  - ・主要症候 4コマ 安部貴大
  - ・診療ガイドラインと倫理規範 4コマ 安部貴大
- ②検査と診断
  - ・画像診断 2コマ 安部貴大
  - ・検体検査 2コマ 沢井奈津子
- ③治療
  - ・チーム医療の流れ 4コマ 安部貴大
  - ・治療方針決定のプロセス 2コマ 安部貴大
  - ・治療学概論（外科、放射線、薬物） 4コマ 安部貴大
- ④臨床研究への展望 4コマ 安部貴大

## 教科書および参考書

口腔外科学第4版 医歯薬出版、口腔内科学第3版 永末書店、各学会策定のガイドラインなど

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

全身的な所見の取り方、検査法の概要が理解でき、また文献検索が適切に行なえ、必要となる論文などの情報を正確に読み取る能力が求められる。

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ①口腔外科診断法の基本を説明できる
- ②診断から治療の流れとチーム医療の意義を理解し応用できる
- ③科学的根拠に基づいた治療方針を理解し説明できる。
- ④最新の文献を検索し新たな研究テーマを立案、実践できる

## 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	30%	20%	30%	20%	0%

## 評価の要点

- ・レポートは、授業計画で行った講義について課題を提出する。6% x 5回 = 30%
- ・成果発表は、症例報告などの形式で学会発表する。1回20%
- ・ポートフォリオは、担当する症例の治療計画、研究立案を提出する。10% x 3回 = 30%
- ・口頭試問は、授業終了後やカンファレンスで知識理解度を判定する。1% x 20回 = 20%

## 理想的な達成レベルの目安

口腔顎顔面外科学の基礎知識に関する理解度の達成レベルでは70%以上、診断治療法の説明能力と態度を主とする総合評価で80%以上を求める。